



ふじみだい

すこやかな心を育むために ～ 読書の秋に寄せて

校長 和田 みずほ

天高く馬肥ゆる秋です。そして、読書の秋です。

子どもの心が育つには、実体験が欠かせません。経験を通してこそ、知識が生きることに役立つ確かな知恵になります。その立場に立って初めて相手の気持ちが分かるようになります。しかし、大人になるために必要な全てのことを実際に経験するのは難しいことです。そこで、本の力を借りて、子どもたちの心に、「ちえの種」「こころの種」「げんきの種」「まちの種」そして、「ゆめの種」をまいていきたいと思えます。

本の世界では、旅や冒険をしたり、自分とは違う立場の人になったりすることができます。新しいことを知ることができたり、知っていると思っていたことの違う面に気付いたりすることもあるでしょう。著者、編集者、出版社などたくさんの人によって時間をかけて創られ、多くの子どもたちや保護者、本にかかわる様々な人に選ばれ、読み継がれてきた本には、心や言葉を育てる力があります。富士見台小学校の図書館には、そのような本がたくさんあります。

富士見台小学校では、主体的・意欲的な学習活動を支え、豊かな感性や情操・思いやりの心を育むことを学校図書館教育の目標としています。

今年度、PTA会費によって、学校図書館の蔵書のリニューアルが行われました。PTA会長の竹内さんは、「PTA実行委員会と先生方とで相談して本を選びました。子どもたちの『知りたい』『読みたい』『学びたい』気持ちに答えるとともに、より親しみやすい身近な図書室になればうれしいです。」とおっしゃっていました。中でも『マジックツリーハウス』がおすすめだそうです。感染症の影響でどこにも出かけられないときにお子さんが夢中になって読んでいた本だそうです。世界中を旅する気持ちにさせてくれたと話してくださいました。

蔵書の整備を行ってくださっている図書館ボランティアのみなさん、朝早くから学校に訪れ、読み聞かせをしてくださっている読み聞かせボランティアのみなさんなど多くの支えがあって、富士見台小学校の学校図書館教育は成り立っています。

このような環境の中、晴れた日は60人くらい、雨の日には100人くらいの子どもの来館し、本に親しむ姿が見られます。

子どもの心にまいた「ちえの種」「こころの種」「げんきの種」「まちの種」そして、「ゆめの種」が芽を出し、花を咲かせ、実を結び、すこやかな心を育てていってくれることを願っています。

秋の一日、ご家庭でもお子様と一緒に、本を読んだり、本のことを話題にしてみたりしませんか。